

1. 現状調査



3 分配器



3 分配器



BS アンテナよりの混合分波器 MCM201

1号棟9階 第2階段のTV分配器箱 TV-3の内部

コープ野村南流山貳番街は 2001 年に CATV が導入され、この導入工事に伴ってデジタル対応の分配器に交換された。CATV の導入は超高層ビルの増加に伴う地上アナログ放送の電波障害への対応を主目的としたもので、BS 放送は 1990 年設備の BS アンテナを利用する方式とした。CATV 経由で BS デジタル放送を視聴の場合、周波数変換パススルー方式となり、BS デジタル放送を各部屋（南側と北側の 2 箇所の TV 端子に対応）で観るには各端子でアップコンバータが必要となるが、既設の BS アンテナを使用することでこの制約のないものとなっている。

TV 分配器函の調査の結果、CATV 双方向/BS・CS-IF 増幅器 TEC-7702CSA (TOSHIBA)とそれ以降の分配器は 10～2610MHz の帯域に対応するが、BS アンテナから増幅器に入る途中の混合分波器 MCM201 が 10～1770MHz の帯域であることが確認された。

TV ケーブルは幹線部分は 7C-BVF、住居の南側が 5C-2V、北側が 5C-BVF が通線されている。

## 2. 110 度 CS 放送へ対応するには

110 度 CS 放送対応とするにはアンテナ、分配器やブースター、同軸ケーブルがこれに対応する必要がある。

既存のアンテナは 1990 年設置の BS アンテナであり、110 度 CS 放送に対応させるには 110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナに更新が必要である。(例：90cm 形 BS・110 度 CS アンテナ DBCA-901B (DX アンテナ))

分配器やブースタについては CATV の導入で改修の範囲外である既存の BS アンテナと CATV 双方向/BS・CS-IF 増幅器の間にある混合分波器 MCM201 を 110 度 CS で必要とされる周波数帯域に対応したものに交換が必要となる。(例：HF-FM/VHF-UHF,BS/CS-IF 用混合分波器 CSMW1 (DX アンテナ))

同軸ケーブルは 5C-2V (770MHz) →S-5C-FV (1,800MHz) →S-5C-FB (2,150MHz、2600MHz 対応もあり) →S-5C-FBL (2,600MHz) と高周波化対応がうたわれ、現在販売のテレビ端子も 2,600MHz 対応となっている。これより、当マンションの同軸ケーブルは規格的に古いものといえる。しかし、「ケーブルの使用距離が短い場合は BS・CS 非対応のケーブルでもブースターなどを併用する事では BS・CS に使える場合も有る」とされ、現在、BS デジタル放送 (～1318MHz) が視聴できている事実もある。

## 3. 今後の対応について

現在、設置されている BS アンテナは BS デジタル登場前の 20 年経たものであり、BS デジタル放送をブロックノイズの発生が少なく安定的に受信する上で、110 度 CS 対応 BS デジタルアンテナに更新することは有効である。

混合分波器 MCM201 の交換は 9 階の MB 内の TV 分配器函での作業であり容易に対応できる。

同軸ケーブルの引き換えは多額な費用がかかることから、アンテナと混合分波器の交換の後、受信状況を確認した上でその計画を行うのがよいと考えられる。